


<p>研修テーマ</p>	<p>氷山モデルによる行動理解</p>
<p>研修のねらい</p>	<p>行動の背景・要因を推察することで、行動の理由を理解する。 [キーワード] 氷山モデル、背景・要因、行動の理由</p>
<p>期待される効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学校生活の様々な場面で子どもの行動から、「～ではないか」と背景・要因を推察しようとする。 • どのような背景・要因が指導・支援に役立つかを理解し、校内の情報共有等に生かそうとする。
<p>進め方の例と留意点(集合研修) ※留意点</p>	<p>研修にかかる時間 (30～45分)</p> <p>1 はじめの説明、動画の視聴</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>この研修は、通常の学級担任を含めたすべての先生方が対象のものです。これから動画を流しますので、「子どもを理解するために必要な見方・考え方は何か」を理解する時間にしましょう。「自分が教えてきた子どもにも当てはまるのでは」と実際の子どもの思い浮かべながら視聴すると、より効果的な研修になると思います*。</p> <p>動画を見ながら、その途中で演習を行いますので、筆記用具を準備しておいてください。では始めます。</p> </div> <p>※2回目以上の方には「動画の後にある説明を覚えているか確認しながら」「自分が説明できるか確認しながら」視聴してほしいと伝え、さらに研修効果が高まると期待されます。</p> <p>2 演習</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>それでは、スライドにあるように、子どもの背景・要因について自分なりに思ったことを書いてみてください。どんな内容でも構いませんが、「できるだけたくさん」挙げるようにしましょう。</p> <p>〇分間*考えたら、近くの人同士で、お互いの考えを話し合うので、まずは自分で取り組んでみてください。</p> </div> <p>※動画の中でタイマーが出ますが、必要に応じて調整してください。考える時間5分、話し合い5分を目安としますが、3分～7分程度で調整しても構いません(動画視聴後にもう一度話し合う場合は、話し合いの時間を減らしてもよいでしょう)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • グループで共有する際は、2～4名程度で行うとよいでしょう。 <p>※記載内容を主催者が確認したい場合は、他の人の考えを書き出す際に、色や場所を分けてもらうように、事前に伝えておくともよいでしょう。</p> <p>3 動画の視聴 (続き～最後)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最後まで見てから感想等を話し合うと、より研修効果が高まりますので、5～10分程度の時間を確保しましょう。 • また、協議中に先生方の記述を見ておき、良かった内容を紹介するのも有効です(良しあしの判断基準は、本紙の最後に記載)。 <p>4 終わりに</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>今回の研修は、「子どもの実態を把握するときのポイント」について学びました。今までに思っていたこと以外の理由についても、推測できる幅が広がったのではないのでしょうか？ (状況により伝えること)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 今後、さらに実態を把握する研修を行いますので、それまでに今回の研修で学んだことを実際の指導場面で活用してみてください。 • 研修を受けて気付いたことや、明日から生かせそうなことを、アンケートに書いて提出してください。 <p>まとめとして、管理職の先生からひと言いただきます。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 記入したワークシートやアンケートを回収して終了

<p>進め方の例と 留意点(独習)</p>	<p>研修にかかる時間（ 30分程度 ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研修の準備をする <ul style="list-style-type: none"> ・動画が視聴できる環境、ワークシート、本資料、筆記用具を準備 2 動画の視聴（前半部分） <ul style="list-style-type: none"> ・演習が始まる前の部分まで、動画を視聴してください。 3 演習 <ul style="list-style-type: none"> ・「背景・要因の推察」のワークを3～5分程度行います。3つ以上、できれば5つ以上挙げられればよいでしょう。 ※演習部分は、省略すると効果が上がりません。<u>必ず、時間を取って演習を行うようにしましょう。</u> 4 動画の視聴（後半部分） <ul style="list-style-type: none"> ・演習後の部分を視聴します。 ・視聴後、気付いたことや、今後やりたいことを、ワークシートに記入しておくことさらに研修効果が高まりますし、一定期間後に振り返ったときに、思い出しやすくなります。
<p>使用する資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 研修動画 https://www.youtube.com/@fsnec から 「冰山モデルによる行動理解」を選択 ②スライド } 福島県特別支援教育センターWeb サイトから ③演習シート } https://special-center.fcs.ed.jp/ ④筆記用具（各受講者） ⑤研修の手引（本紙）※研修企画者・進行役が使用する。 <div style="text-align: right;">  </div>

注 下の表の内容は、**受講前には伝えない**ようにしてください（研修効果が下がってしまうので）

- これは研修の**進行役のための参考資料**です。
- まとめの際に、先生方の記述から**良い内容をピックアップして紹介するための基準**にしたり、いくつか参考に読み上げたりすることで、**考える方向を共有する**目的で使用します。
- テーマを変えて本研修を繰り返し行う過程で、「まずはたくさん出す」「少しずつ内容を高めていく」など目標を示しながら、「**先生方が段階的に向上していくステップ**」を大事にしてください。

正解発表のように使うと、先生方が自分の考えを評定されるように感じてしまうおそれがありますので、ご注意ください。

- 表の推察は、「今回の演習テーマにおける例であることに留意してください（同じ記述でも、テーマが変われば評価が変わる場合があります）。

演習テーマ	「課題(提出物)が出せない」児童生徒の背景・要因の推察（参考例）
Good な推察 (増やしたい)	※このような推察は、本人の指導・支援を考える上で、効果的にはたらくと期待できるので、 <u>増やしていけるとよい</u> でしょう。 ○本人の 資質・能力や特性 に関する内容 「記憶を保持する力に課題?」「聴覚記憶が弱い?」「情報が多いと抜けやすい?」 ○ 状況的な違い を表す内容（本人の理解を意識するとよい） 「確認するチャンスが少なかった?」「やるべきことが多かった?」「別のことをしているタイミングで指示されていた?」「帰りの会で宿題を確認できずに帰した日だった?」 ○ 環境の影響(ハード面) に関する内容 「周囲が賑やかだった?」「その日の宿題を掲示する場所がない?」 ○ 指導の仕方 や本人への伝わり方(ソフト面)に関する内容 「全体指示だけだったから?」「口頭指示だけだったから?」「プリントに締切が書いてなかったから?」
要整理 な推察 (整理したい)	※このような推察は、もう少しだけ深めたり、 焦点化 したりすることで、有効にはたらくと考えられるので、「 <u>もっとこう考えてみたら</u> 」と促していくとよいでしょう。 ○ あいまいな概念、焦点化されていないラベリング など 「〇〇障がいたから」 → その障がいの特性のうち、どんな部分が影響しているのか、考えるように促すとよいでしょう 「学習空白があるから」「集中力がないから」 → 既習事項の理解不足は、どんな資質・能力が発揮できていないと考えたのか、集中力がある状態とない状態の違いに影響する要素はないか、などを詳しく考えると、上の分類に近づいていくと思われれます。
要検討 な推察 (減らしたい)	※このような推察は、(事実かどうかにかかわらず)本人への指導に直結させることが難しく、指導・支援の検討にはあまり活用できないものです。上の分類が増えるように、 <u>意識を切り替えていけるとよい</u> でしょう。 ○ 家庭環境 や保護者の養育等に関すること 「母親が外国籍だから」「生活保護だから」「片親だから」「ヤングケアラーだから」「親も〇〇障がいっばいから」… 変更・調整が難しい内容なので、例え事実だったとしても、教師の指導・支援の工夫につながりにくい内容です。 → 取り上げたくなくなる気持ちには共感しながら、「本人ができる範囲のこと、教師が調整できる範囲のことで考えるよう」に伝えるとよいでしょう。 ○やる気・好き嫌い・苦手、といった 意欲や気持ち に関すること → そのやる気や好き嫌いを作り出した「理由」に当たる要素が、指導・支援に役立つので、そこに焦点を当てていくように伝えるとよいでしょう（そうすると、自ずと上の分類のような内容に変わっていきます） ○ 体調 などの「そのときだけ」の要因 「お腹が空いていて集中できなかった」「疲れていた」「眠かった」 → 指導・支援を考える材料になりにくいことを伝えましょう。